

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成19年9月27日(2007.9.27)

【公開番号】特開2001-91801(P2001-91801A)

【公開日】平成13年4月6日(2001.4.6)

【出願番号】特願2000-254511(P2000-254511)

【国際特許分類】

G 02 B 6/44 (2006.01)

H 01 B 11/00 (2006.01)

【F I】

G 02 B 6/44 3 6 6

H 01 B 11/00 L

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月13日(2007.8.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】光導波路ケーブルであって、光導波路部材を収容するための室(6)を有する基体(4)が設けられている形式のものにおいて、

各室(6)が平滑な表面を有しており、該表面が、各光導波部材にとって不都合な空間周波数領域において粗さの回避に応じるようになっていることを特徴としている、光導波路ケーブル。

【請求項2】基体(4)が高結晶性PE、PP、PBT、PAまたはPCからなっている、請求項1記載の光導波路ケーブル。

【請求項3】各室(6)の平滑な表面が、 $2 \text{ mm}^{-1} \sim 20 \text{ mm}^{-1}$ の空間周波数領域において $R_a > 0.5 \mu\text{m}$ の表面粗さを生ぜしめないように形成されている、請求項1または2記載の光導波路ケーブル。

【請求項4】各室(6)の平滑な表面が、同時押出成形された薄いプラスチックコーティング(12, 14, 16, 18, 20)によって形成されている、請求項1から3までのいずれか1項記載の光導波路ケーブル。

【請求項5】前記同時押出成形された薄いプラスチックコーティング(12, 14, 16, 18, 20)が、LDPEから形成されており、前記基体(4)がHDPPEから形成されている、請求項4記載の光導波路ケーブル。

【請求項6】係数 $C_{m e c h}$ が、基体(4)の室(6)の平滑な壁部の公式 $M_{i k r o} = C_{m e c h} * P_o$ に基づき、

【数1】

$$(C_{m e c h})_{min} = 4 * 10^{-5} [\text{dB} * \text{m} / \text{N} * \text{km}] \sim (C_{m e c h})_{max} = 0,01 [\text{dB} * \text{m} / \text{N} * \text{km}]$$

の領域にある、請求項1から5までのいずれか1項記載の光導波路ケーブル。

【請求項7】前記平滑な表面が、0.3より小さい摩擦値(ファイバ束とコーティングとの間の付着摩擦係数および滑り摩擦係数)を有している、請求項1から6までのいずれか1項記載の光導波路ケーブル。

【請求項8】前記表面にコーティングが設けられており、該コーティングのプラスチックマトリックスに摩擦値を減少させるための滑動手段が混入されている、請求項7記

載の光導波路ケーブル。

【請求項 9】 前記表面にコーティングが設けられており、該コーティングが吸水性ポリマのような吸水性物質を液体の形で有しており、該吸水性物質が、基体(4)に塗布された後付着するように形成されている、請求項7記載の光導波路ケーブル。